

第 437 回集談会

- 1.日時：2012 年 10 月 15 日（月）16:30～
- 2.場所：2 A 講義棟（中央棟 2 階）
- 3.座長：生薬学教室准教授 佐々木健郎先生（内線 4605）
- 4.演者：薬学教育センター講師 八百板康範先生（内線 3913）
- 5.演題：キク科植物の新規テルペノイド成分
- 6.要旨：テルペノイドは、炭素数 5 個のイソプレン単位に由来する膨大な数の化合物群である。これらは構造的にも多様性に富んでおり、生物活性を有するものも多く見出されている。一方、キク科植物はテルペノイド成分を豊富に含み、且つ、薬用として用いられるものが多い。しかし、これらの成分は化学構造が類似していることから分離、精製が困難であったため、詳細な検討がなされていなかった。このような観点から演者らは、種々の分離分析法や二次元 NMR 法を駆使することにより 7 種のキク科植物、款冬花、フキ、オオアレチノギク、ハルジオン、ヒメジョオン、マルバダケブキ及びメタカラコウのテルペノイド成分について、その詳細な検討を行なった。その結果、83 種の新規化合物を単離し、それらの化学構造を明らかにすることができた。本集談会においては、上記の結果を中心に、各植物に含有されるテルペノイド成分の特徴ならびに化学構造の新規性について述べる。